



かながわ人生100歳時代ネットワーク 自走化検討部会

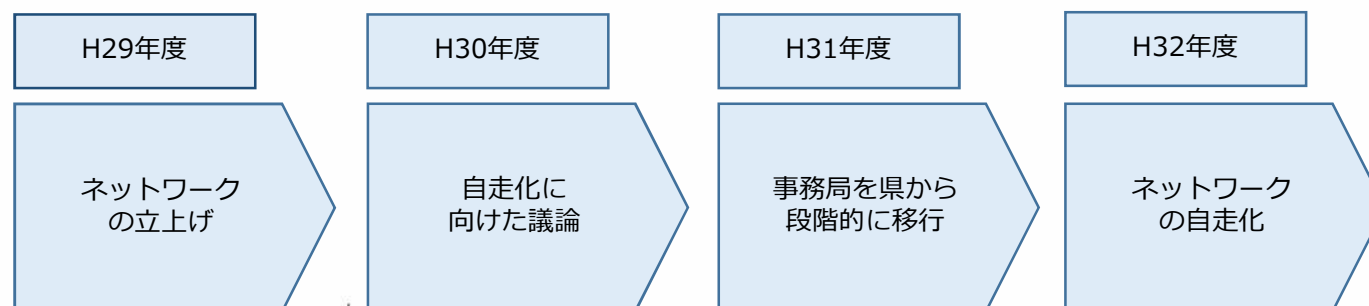
平成31年3月15日

ネットワーク自走化の目的

1 目的

かながわ人生100歳時代ネットワークは、県民一人ひとりが生き生きと充実した人生を送ることができる社会を実現するため、「学びの場」から「活動の場」へ「つなぐ」しくみを創出することを目的としています。そして、その目的を果たすためには、市町村・大学・企業・NPO等の多様な主体が協働して取組みを進めることが必要であり、そのための最適な運営形態を検討し、より自由度を高めた形で運営していく（自走化）必要があります。

2 自走化のロードマップ



自走化検討部会 構成員

五十音順

- 大塚製薬（株）
横浜支店
- 小田原市
- 神奈川県
- 神奈川県
住宅供給公社
- 神奈川大学

- （特非）さがみはら
市民会議
- （一社）ソーシャル
コーディネート
かながわ
- 茅ヶ崎市
- （株）横浜銀行
- 横浜国立大学

自走化検討部会（第1回）

第1回 2018年9月19日火曜日 14:00～16:00

【議論のポイント】

- ネットワークが地域や社会に対してどのような価値を提供することができるか
- 「自走化」とは事業を継続的に回すこと。自走化には責任、資金を伴う。
- メンバーが共感する「ビジョン・あるべき姿」と、そこに向けた検証・実装を含めたアクションの積み上げが必要

自走化検討部会（第2回）

第2回 2018年11月15日木曜日 14:00～16:00

【議論のポイント】

- 人生の充実を目指して「学び」から「活動」につなぐ取組を続けていくために必要なこと
 - ① アクションによって、メンバーにメリット・便益があること
 - ② アウトプットが社会や地域、県民に貢献していること
 - ③ 人脈を生み出すプラットフォーム
- 「自走化」と言っても、県が事務局機能を担うべき。
- メンバーがメリット・リターンを享受するためには、リソースの提供、情報の提供、機会の提供など「汗をかく」ことが必要ではないか

ネットワークの機能

かながわ人生100歳時代ネットワーク

県民一人ひとりの人生の充実を目指して、
学びから活動の場につなぐ

アウトプットが
社会、地域、県民に対し貢献

立場の異なるメンバーそれぞれに、
メリット・便益

異業種交流などのプラットフォームとして機能

自走化検討部会（第3回）

第3回 2019年1月16日水曜日 14:00～16:00

【議論のポイント】

- メンバーが温めているプログラムがあり、自ら単体で実施することは困難だが、メンバーとの協働、県のバックアップがあれば、実行に移せるのではないか。
- 「協力する」というスタンスだけでは自走しない。「これをやりたい」というコアメンバーがいて、「やりたい」を支えるメンバーがいる。この構造こそが「自走化」なのではないか。
- 「この指とまれプロジェクト」を試行してみる。
- 「この指とまれプロジェクト」が何本も生まれ、成果をPRすることができれば、ネットワークのステータスを上げる、よいロールモデルになる。

この指とまれプロジェクト

現在、3つのプロジェクトを走らせている。

- ① カッコイイおとなプロジェクト
- ② 生涯現役マルチライフ推進プロジェクト
- ③ ご近所ラボプロジェクト

だけど

100歳ネットワークのメンバーが順次拡大していく中で、プロジェクトに対して自らの案を提案できていないメンバーも多いのではないか。

そこで

メンバーが提案したプログラムを試行してみよう！

この指とまれプロジェクト／目的

ネットワークメンバーの自発的なプログラム企画

ネットワークメンバーの自発的な協力

メンバーがリソースを持ち寄ったプログラムの実施
= 自走プログラム

プログラム成果の発信
ネットワークステータスの向上

この指とまれプロジェクト／流れ

プレゼン

メンバーが自発的に試行したいプログラムをプレゼンテーション

プログラムの
選択

メンバーが自発的に参画したいプログラムを選択

グループ
結成

提案メンバーと参画希望メンバーでプログラムを実行するグループを結成

プログラム
実行

2019年度中にプログラムを試行。成果報告

この指とまれプロジェクト/プレゼンテーション

前提条件

ねらい

- 社会、地域、県民に貢献するプログラム

プレゼン
の構成

- ① 事業の概要
- ② 事業の期待する効果
- ③ 事業の実施場所
- ④ 事業のスケジュール
- ⑤ 期待するリソース（財政面、場所、人脈、スキル等）

費用

- 原則として、事業提案者及び事業参画者が負担

実施期間

- 2019年度内

事業参画

- 提案者 + 参画者 1 者以上 = 2 者以上

この指とまれプロジェクト／スケジュール

3月

プロジェクト募集（～4月下旬）

5月

プレゼンテーション（提案者及び希望者）

マッチング（提案者と当日参加者）

5月以降

プロジェクトの準備ができ次第スタート

9月

中間フォローアップ

3月

成果報告（トライアルプロジェクトの自己評価）

- 国の地方創生推進交付金（交付率1/2）を財源に事業実施できるのは、2019年度まで。
- 2020年度以降の「かながわ人生100歳時代ネットワーク」の運営について、2018年度に議論を行い、「この指とまれプロジェクト」に取り組む。